

館報 教育記念館

No. 78

平成24年3月 発行

『みんながんばってます 作品展』

～県内特別支援学校～



『造形教育作品展』

～県内幼稚園、小・中学校、
高等学校～

主な内容

- ◎教育時評 「研修と指導の一体化」を目指した3つのチャレンジ
富山県総合教育センター 所長 中村 吉和2
- ◎特集「アイデアロボットフェスタ」3
- ◎後期恒例展から4
 - 「みんながんばってます作品展」「富山県造形教育作品展」
 - 「教職員厚生会退職厚生部富山支部会員作品展」「アイデアロボットフェスタ」
 - 「富山県中学校美術展」「版造形教育作品秀作回顧展」
- ◎わが校の歴史から6
 - ★朝日町立五箇庄小学校
 - ★魚津市立坪野小学校
- ◎「学ぼう！ふるさと未来」支援事業実践活動報告会8
平成24年度の展示計画 あとがき



発行所／財団法人 富山県ひとつくり財団 富山県教育記念館 〒930-0018 富山市千歳町1-5-1
TEL (076) 444-2000 FAX (076) 444-2001 E-mail: toyama@t-hito.or.jp http://www.t-hito.or.jp

(教育記念館会議室ご利用の場合 ☎ (076) 433-2770)

発行人／富山県教育記念館 館長 伏黒 昇 印刷所／いおさぎ印刷株式会社



「研修と指導の一体化」を目指した3つのチャレンジ

富山県総合教育センター

所長 中村 吉和

センターの各種業務を遂行していくうえで、何よりも大切なことは「研修と指導の一体化」を目指す方向性にあると考える。

「研修」と「指導」が一体になってこそ児童生徒への効果的な教育が可能である。そのためには、センター等の研修機関と県教委事務局・教育事務所等の指導機関が相互に緊密な連携を図らねばならない。また、昨今、研修の効果測定の必要性が論じられ、研修会で学んだ内容を教員が児童生徒の指導にどのように生かしているかが問われるようになってきた。学校現場における研修成果の評価は甚だ難しいことだが、避けて通れない克服すべき課題といえる。

ところで、センターでは昨年度より、研究主題「実践的な指導力の向上を図るこれからの教員研修の在り方」*を掲げ、次の3つのチャレンジ（研究）に取り組んでいる。

1つ目は、「校内研修活性化研修会」におけるインターバル研修の活用である。本研修会は、授業研究を中心とした校内研修の活性化を図ることをねらいに3回の研修会からなるが、集合研修2回目と3回目の間にインターバル研修を設け、受講者に研修会で学んだことを勤務校で実践していただいている。その際、受講者の勤務校の要請に応じて研究主事が学校訪問を行い、校内研修の場で進行役を務めるなどして、受講者を側面から支援することで学校の実態に即した研修内容の定着を図っている。

2つ目には、「情報教育訪問研修」における学校の研修指導者（ミドルリーダー）の育成である。センターで行う集合研修「わかる授業のためのICT活用研修会」のねらいに、新たな試みとして校内研修における研修指導者の育成を加える。そのことで、研究主事が「情報教育訪問研修」を実施する際に、先の研修受講者が指導者となって自校の教員の実態に即したより効果的な研修内容を構築・実施するなどミドルリーダーとして自立

できることを目論んでいる。

3つ目には、学校の様々なニーズに応じた「教育相談訪問研修」と教員対象のアンケート調査の有効活用である。「教育相談訪問研修」では、新たに児童生徒の実態に応じた「研修プログラム検索システム」を構築し、訪問研修に生かすよう努めている。また、訪問研修の事前・事後・一定期間経過後の3回にわたって教員対象のアンケート調査を実施することで、自分の指導についての見通しや問題を抱えた児童生徒への気付き・知識・理解等が、研修終了後、教員の指導力向上につながっていくか否かの実態把握に努めている。

さて、これら3つのチャレンジ（研究）に共通する特徴は、学校における校内研修の活用と推進であり、研究主事の立場からすれば、従来の「待ち」の姿勢から「打って出る」姿勢への転換にある。また、センターで受講者を募って行う集合研修と、受講者の勤務校の協力を得て教員全体で行う校内研修を上手く絡めることにより、受講者が「研修」で得た知識・理解・技術等を学校の教育環境や児童生徒の実態に応じた「指導」に生かすことが可能となる。さらに、校内研修を通して研修受講者のみならず、多くの教員が課題解決の手法を共有できるように支援することができ、そのことで学校の教師集団が学び合い、学びの共同体としての同僚性も高まったとの報告をも受けている。

平成18年7月の中教審答申に、「変化の激しい時代だからこそ、教員に求められる資質能力を確実に身に付けることの重要性が高まっている。」とある。今後とも時代の課題やニーズを的確に捉えた研修を通して、教員の実践的な指導力を高めるよう、「研修と指導の一体化」に一層の努力を傾注していかねばならないものと思う。

*全国教育研究所連盟第20期共同研究の研究主題でもある。当センターは、全国研究集会にて2年連続で基調提案と研究発表を行っている。

ものづくりの大切さや科学のおもしろさを学ぶ

ロボット展（平成23年12月10日～平成24年1月22日）

県内の中学生・高校生・高専生が製作したアイデアあふれるロボットを一同に展示しました。また、2回のロボット教室もたくさんの小学生が参加し、真剣に作業し、完成品を楽しみました。



富山市立大泉中学校「小泉隊」

第8回富山県中学校ロボットコンテスト大賞受賞

（写真左から） —「小泉隊」女子チームで初めて！—

草開香南：工業高校へ進み、部品製造の職に就きたい。

大窪沙都：4人の協力でやり遂げたことが嬉しい。

山村優佳：え！大賞に～驚きと喜びがこみ上げてきた。

吉岡恵実：優しく梨をもぎ取るアイデアが活かされた。

暑い夏に汗出し・知恵出し・声出し合う中で、部品一個の大切さに気づいた彼女たちです。《ものづくりは人づくり》ですね。

◆高等学校ロボット

魚津工業高等学校 富山工業高等学校
大沢野工業高等学校 不二越工業高等学校
高岡工芸高等学校 砺波工業高等学校



◆富山高等専門学校ロボット

本郷キャンパス 射水キャンパス



◆中学校ロボット

砺・出町中学校 富・大泉中学校 富・八尾中学校
砺・庄西中学校 氷・南部中学校



手作りロボット操作体験コーナー

チャレンジデー（平成24年1月14日、21日）



講演：小柳栄次 氏（千葉工業大学未来ロボット技術研究センター副所長）

福島第1原発事故の対応に大活躍した自作のレスキューロボットのしくみについて貴重な映像を加えての講演でした。まさに、日本の救世主だと実感しました。



デモンストレーション

第29回 みんなががんばってます作品展

県内13の特別支援学校が年に1回、一同に集い、力作を発表しました。



○どれも自分の力を込めた素晴らしい作品です。特に感動したのは、小学生の詩です。物体を感じたままの表現は大人にはできないものです。

○どの作品も時間をかけて作ったことがうかがえます。いろいろな支援学校の活動を見ることができてよかったです。(参観者)



第27回 教職



第42回 県造形教育作品展

幼稚園、小・中学校、高等学校から生き生きとした作品が集まりました。それぞれの年代の素晴らしい表現力で、成長の様子が分かります。



アイティ

半日コースは
生が講師となっ
学生が熱心にロ

半日コース(ローブウェイロボット)



1日コース(光センサーよけロボッ)



後 期 恒 例 展

員退職厚生部 富山支部作品展



絵画、写真、工芸作品、書、盆栽、景石をはじめ、学習教室で制作した作品など約100点ほどが展示されました。

アロボットフェスタ ロボット教室

高校生、1日コースは中学校の先で、どちらのコースも30数名の小ロボット製作に取り組みました。



第22回 富山県中学校美術展

県内82校の中学校から、平面作品145点、立体作品55点の豊かな感性に溢れた秀作が集まりました。

- この作品を見ているとこちらも気持ちが若々しくなりますね。
- 中学生でこんなに素晴らしい作品が作れるのですね。美しい色使いが印象に残りました。(参観者)



版造形教育作品 秀作回顧展

平成7年から平成10年までの秀作版画作品129点を展示しました。



わが校の歴史から



正義と意気に 燃ゆる子
永遠に誇らん わが学び舎

朝日町立五箇庄小学校



<校区の概要>

本校は、北陸自動車道朝日インターから車で約2分に位置し、すぐ近くには国道8号線も通っており、交通の便のよいところである。校区は世帯総数約710戸で4町内に分かれ、農村部、農漁村部、新興住宅団地の地域相を形成している。地域住民の学校に対する期待は高く、PTA活動や学校行事への参加は積極的で、かつ協力的である。また、地区には獅子舞などの伝統的な行事や公民館に宿泊しながら通学する「公民館通学合宿」など、「地域の教育力」がしっかりと息づき、そのような中で子どもたちは郷土愛を育みながら、地域の人たちに見守られて健やかに成長している。

<学校の概要>

本校は、明治16年8月に自治小学校として児童数39名、建坪約14坪の小さな学校としてスタートした。以来、128年の長きにわたり、地域に支えられながら、子弟の教育と地域文化の拠点として貢献してきた。しかし、昭和30年代には約370名を数えた児童数も、現在は103名にまで減少し、本年度をもってさみさと小学校と総合することになった。

本校の128年の歩みを振り返ったとき、幾多の困難な時代を先人の智恵と努力で乗り越えてきた。創校された明治16年は富山県が石川県から分県した年であり、西側校舎が建てられた大正7年は各地で米騒動が勃発し、さらにはスペイン風邪が猛威を振るった時代であった。また、給食を始めた昭和17年は、太平洋戦争の真っただ中で食料事情の苦しい時代であった。東側校舎が作られた昭和27年は連合国統治がようやく終わりを迎えた年であったが、戦争の傷跡のいまだ癒えぬ時代であった。

このような困難を乗り越えながら四千数百

名の卒業生を送り出し、多くの有為の人材を輩出してきた本校への地域の愛着には熱いものがある。

<本校の特色ある教育>

本校では、徳・体・知の目指す子ども像を「心ほのぼの」「元気もりもり」「瞳きらきら」ということばで表現し、「損得よりも善悪を」「体格よりも体力を」「知識よりも智恵を」をキャッチフレーズに日々の教育活動に取り組んでいる。

○心ほのぼの

- ・大縄跳びや全校リレー、栽培活動など、1～6年生までみんなが心をつなげて取り組む縦割り班活動を通して、思いやりのある子どもの育成にも努めている。
- ・学校と地区（公民館）が連携・協力した教育活動（人権集会、道徳の公開授業、ふれあいの集いなど）や地域の活動（公民館通学合宿、リレーマラソンなど）を行い、学校と地域のつながりを深めるとともに、子どもの郷土愛を育てている。

○元気もりもり

- ・テレビやゲームなどによって不規則になりがちな生活を見直し、メディアとよりよくかわりながら生活ができる自律的な力をつけようと、PTAとも協力して「ノーテレビタイム・ノーゲームタイムにチャレンジ」に取り組んでいる。

○瞳きらきら

- ・水曜日はお昼の掃除を行わず、その時間を6限終了後に「学級タイム」として位置づけ、学習の進度に応じた個別の指導を行っている。
- ・自分で決めた内容を自分が決めた量、時間で自主的に学習を進めるという家庭での学習習慣を身に付けさせる取り組みを行っている。

わが校の歴史から



児童も教師も
輝く学校

魚津市立坪野小学校



〈校区の概要〉

校区は角川の支流である富川の上流に位置し、坪野・北山・池谷の3地区約70戸からなる山村である。標高180m程に位置し、四季折々に変化する豊かな自然が残り、また、松倉城を本城とした坪野や北山支城として栄えた文化財も現在に伝えている。地域に伝わる獅子舞は、学校の伝統として受け継がれている人形劇とともに、児童が体験的に学べる最適な教材である。

保護者は学校行事やPTA活動に両親揃って参加するなど、積極的であり、教育活動全般にわたって大変協力的である。

〈学校の概要〉

大正3年に松倉村立松倉尋常小学校坪野分教場として開設され、その後昭和16年松倉村立松倉国民学校坪野分教場と改称、昭和27年魚津市立松倉小学校坪野分教場を経て昭和52年松倉小学校より独立し、魚津市立坪野小学校として開校される。

現在、児童数は14名で複式の3学級編制である。

小規模校のよさを生かして学年の枠を超えた異年齢集団での活動を多く取り入れている。人形劇活動は、児童の表現力や協調心を高める上で大きな教育効果を上げている。また、保育園や老人福祉施設における上演を通して、奉仕の心を育てている。

平成14年度に、北山地区に伝わる獅子舞を習っており、地域文化の伝承活動も行っている。

地域行事、学校行事を通して、子どもたちが、地域に対する愛着をもち、ふるさとを誇りに思う気持ちが高まっている。

平成24年3月に、地域の住民に愛され、育まれて35年魚津市立坪野小学校の歴史に幕を下ろす。

〈特色ある取り組み〉

「全教職員が全児童の担任」を基本姿勢に、児童を主役にした教育活動を推進し、児童が輝く学校、保護者・地域から信頼される学校を目ざし、日々活動に取り組んでいる。

○人形劇

本校の人形劇は、昭和39年、同分校出身の酒井銈光先生が、「分校を、楽しい学校にし、心の中に、いつも故郷と夢を抱いている子どもにしたい」という情熱から、教えたのが始まりである。

このあたりには、昔、松倉城や松倉金山があって栄え、また山間地で、日照りや干ばつによる水争い、雨ごいなどにまつわる伝説が多い。クマ、タヌキやムジナが出てくる民話も数多く残っており、材料にはこと欠かなかった。

人形は手作り、粘土と新聞紙で型をつくり、布切れで着物をつくって仕上げた。さっそくその年の夏、父兄会で人形劇を披露したところ、父兄たちの評判はよく、子どもたちは自信を深めた。

これがきっかけとなり、毎年人形劇を地域の皆さんに披露するようになった。昭和42年には、小学館の小学3年用雑誌に「子どもの夢を育てる人形劇」と題して、全国の友達にも紹介され、人形劇は、本校の伝統として後輩に受け継がれ、今日まで育ってきた。

○獅子舞

北山地区に古くから伝わる北山獅子舞を保存会の皆様から指導を受け、平成14年に坪野小学校獅子舞として、初めて地区文化祭で披露したのをきっかけに、その後、毎年行われる「戦国のろし祭り」「地区大運動会」「松倉文化祭」「三世代交流学習発表会」など、たくさんの行事で披露し、地域の方々から好評を博し、今では坪野小学校獅子舞として名が通り、本校になくてはならない活動となっている。

「学ぼう！ふるさと未来」支援事業 実践活動報告会

平成24年2月17日(金) 富山県教育記念館 15:00~

朝日町立あさひ野小学校

「風の道」森づくり
一体験学習を通して自然との共生を考えるー



森の役割を学ぶ(丸太の搬出)

立山町立新瀬戸小学校

地域の自然・伝統・文化・人にかかわり、生き生きと自己表現できる子どもの育成



伝統のカレンダーづくり(木版画)

高岡市立博労小学校

ふるさとに誇りと愛着をもち、心豊かに生きる子どもの育成



伝統工芸を学ぶ(彫刻塗り)

富山市立大久保小学校

地域の歴史・文化・自然とかわることを通して ふるさとに愛着を深める子どもの育成



親子でビオトープ整備作業

高岡市立木津小学校

地域の人と仲よしプロジェクトー木津を知ろう 人とつながろうー



名人教室(魚のさばき方)

あ・と・が・き

3.11の東日本大震災から、私たちは、今までの生き方を見直す機会が数多くありました。ものづくりの大切さ、人や地域とのつながりなど未来を担う子どもたちに伝えたいことがたくさんあります。



平成24年度の展示計画

◆特別展「富山県小学校教育 140年の歩み」I (江戸期から終戦まで)

- ◆第3回「児童・生徒による ものづくり展」
- ◆第10回「さんすう・ワールド展」
- ◆第9回「子どもの目・自然不思議発見写真展」
- ◆第28回「退職教職員厚生部富山支部会員作品展」
- ◆第30回「特別支援学校・みんながんばってます作品展」
- ◆第43回「富山県造形教育作品展」
- ◆第8回「アイデア・ロボット・フェスタ」ロボット展
- ◆第23回「富山県中学校美術展」
- ◆第6回「富山県版造形教育作品展・秀作回顧展」

4月26日(木)~6月3日(日)
6月14日(木)~7月15日(日)
7月25日(水)~8月26日(日)
9月6日(木)~10月7日(日)
10月12日(金)~10月21日(日)
11月1日(木)~11月18日(日)
11月24日(土)~12月9日(日)
12月14日(金)~1月20日(日)
1月31日(木)~2月17日(日)
2月28日(木)~4月7日(日)